

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所)

事業者名	ふれあい小樽稲穂2F	評価実施年月日	平成21年5月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年6月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念の共有と実践に向けた取り組みについて、見直し考え、日々のサービスに反映していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	町内会の会合などに参加したり、ホームの行事にお誘いしたり、折に触れ、繰り返し説明していく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	気軽にホームに立ち寄ってもらえるよう、まずはホームの存在を、知ってもらう取り組みをしていく。ホーム外回りの雰囲気作りにも、創意工夫が必要。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	近隣の学校等との関わりを検討する。又、ボランティア関係の情報も収集し地域の人々と交流が図れるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的に組み立てていない。	○	地域住民も参加出来るような、介護予防講習会を開催したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。ミーティングで意義を話しあってから自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果を報告し、フロアミーティングで話し合われているが、具体的な改善への取り組みが不十分である。	○	改善計画シートを作成し記録に残す等、取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、出来る限りサービスに反映されるよう努めている。	○	地域住民、市の担当者等の参加呼びかけを積極的に行っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、困難事例等について相談や指導を受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や青年後見制度の講習会に参加し、学ぶ機会を作っているが、全職員が講習会の参加はできていない。	○	ホーム内で、講習会に参加した職員による、勉強会などを開催したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングで学ぶ機会を設けており、虐待防止の徹底に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、書面と口頭にて、十分な説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、入居者の不満や意見等はミーティングで話し合いを行い、運営に反映出来るよう取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	心身状態の変化などはその都度電話連絡をし、来訪時には直接状態報告をしている。又、月に一度担当スタッフから近況報告を兼ねた手紙と、ふれあい便りを郵送している。又、個別日報を読んで頂いたり、経過表のコピーも渡している。金銭管理は出納帳に記入し、ひと月毎に出納帳のコピーと領収書を送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などで、意見、不満、苦情をお聞きする場を設けている。又、ご家族来訪時や手紙で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。1階にご意見箱も設置しているが、実際には活用されておらず、直接の申し出が主である。ご家族等からの意見や不満・苦情があった場合は早急に対処するようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞いたりしている。又、全体ミーティングでも意見の交換を行い、出来る限り反映するように努めている。ただ、不満や苦情は言いづらい部分もあるので把握しきれない可能性もある。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態の変化に伴い、職員数を増やすなど勤務の調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各フロアの職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心掛けている。職員の異動は入居者、家族の不安や不満を招かないよう必要最小限に留めている。	○ 職員の離職、異動の際は入居者、ご家族に、十分な説明、対応をし、理解してもらえるよう配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には積極的に参加するよう呼び掛け、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。研修報告書を提出してもらい、ミーティングで報告してもらっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>小樽市グループホーム連絡協議会に加入しており、その中のスタッフ研修等に参加している。又、同列会社のグループホームと交流があり、事例検討を通して事業所外の人の意見や経験を聞きケアに活かしている。</p>	<p>○ 他グループホームの見学や交換研修などに取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は職員のストレスや悩みを把握するよう努めていると思う。畳敷きの休憩室を確保している。年に数回親睦会を行っている。</p>	<p>○ 今後もっと、職員一人一人と話す時間を作り、職員の疲労やストレスの要因について理解し、ストレスを軽減する工夫をしてもらいたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が向上心をもって働けるよう職場環境、条件について少しづつだが改善するよう努めていると思うが、現実的には難しい部分も少なくない。職員の努力や成果についての把握は不十分な部分もある。</p>	<p>○ 頻繁にフロアーに来て、職員一人一人の勤務状況などを把握し、職場環境や条件を整える事により、勤務の継続につながると思う。今後も向上心を持って働けるような配慮や対応を考えてもらいたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>基本的には、入居前の面談で必ず本人に会い、心身の状態や、意向をゆっくり聴く機会を大切にし、本人を受け止めるよう努めている。道外からの転入で、本人と会う事が出来ずに入居が決定したケースもある。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ゆっくりとご家族の意向を聴く機会を作るようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善にむけたサービスにつなげられる対応を心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や、体験入居で雰囲気を味わってもらい、本人が安心して入居できるよう工夫している。やむを得ず、すぐに入居になった場合は、ご家族に来てもらい、安心感を持ってもらう等の対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、色々教えてもらう場面が多々ある。一人ひとりが、得意分野で力を発揮してもらえるような場面作りに配慮し、感謝の気持ちを伝えている。又、職員が入居者から、いたわりの言葉や励ましてもらう事も多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、一緒に本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係を理解した上で、入居者と家族の橋渡しとなりより良い関係の継続に努めている。又、ホームのイベントには必ず家族に参加を呼び掛けている。家族、本人の思いや状況を見極め、外出や外泊で家族と一緒に過ごす時間を大切にしている。	○	疎遠になっているご家族には、家族の思いを聞き、受け止めた上で繰り返し来訪の声掛けをしているが、原因が根深く関係修復が困難なケースもある。継続した、取り組みをしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年に数回お寺参りをしている利用者や、昔から利用している床屋に行き続けている利用者、馴染みの仕立て屋に来てもらい洋服のリフォームを頼まれる利用者等がおり、一人一人の生活習慣を尊重した支援を心掛けている。又、手紙・年賀状の代筆、電話連絡など関係が途切れないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で入居者同士が助け合って生活している。気が合う入居者同士の居室の行き来もみられる。入居者同士のいざこざが発生した時は、職員が間に入り関係修復に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	○	ケースによってはホームへ立ち寄ってもらったり、イベントに招待したり継続的な付き合いをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくり話しを聴く時間を大切に、一対一の時は本音を聴き出せるよう努めている。又、何気ない会話や行動、表情から、思いや希望をくみ取り、職員間で情報交換をし、計画作成に反映するようにしている。常に本人の思いを尊重した支援を心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から話しを聴いている。入居後も日々のかかわりの中から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の現状を総合的に把握するように努めている。	○	今後も、できること・わかる力に着目し、把握に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向、担当医の意見など聞き、介護計画に反映している。又、アセスメントやモニタリング、担当者会議に全職員がかかわり、話し合い作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎の見直しを行い、状態の変化に応じて現状に即した計画が作成されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日報やフロア一日誌に日々の様子や気づき、会話の内容などを記入し、実践や介護計画の見直しに活かしている。勤務開始前のフロア一日誌の確認は義務付け、個別日報も職員全員が確認し、押印している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は、柔軟に対応するようにしている。和室があり、ご家族の希望があれば、宿泊可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の意向を反映したボランティアの利用をしていない。	○	外に向けての積極的な活動をし、協力を呼びかけ、地域資源との協働に繋げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望に応じて、訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例等については、介護保険課に相談しているが、地域包括支援センターとの協働はできていない。	○	成年後見制度が必要と思われる入居者に、地域包括支援センターと協力して支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族が希望するかかりつけ医となっている。又、受診や通院は入居者やご家族の希望に応じて対応している。通院介助を行ったり、往診してもらい、複数の医療機関と関係を密にしている。受診結果に関する情報は、管理者等からご家族へ随時報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>ターミナルケアについて、早い段階での話し合いを行い、ホームとして、「できること、できないこと」を家族に伝えていく必要がある。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>職員の不安感軽減の為にも、話し合いは充分に行う必要がある。ホーム内での勉強会や外部研修などにも、積極的に参加していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねる事がないよう、さりげない言葉かけや対応に心掛けているが、時として語調がきつくなったり、慣れ合いになつたりしている。事業所と守秘義務の契約を交わし個人情報の漏洩防止に努めている。	○ 今後もミーティングで取り上げ、職員同士、お互いに注意し合える関係を築いていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人一人の力に合わせ、水分補給時の飲み物や、カラオケの選曲、外食のメニュー選び等、日常的に自己決定する場面を作っている。どんな時も入居者の意思を尊重するよう心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、入居者の希望にそって外出や買い物等、その日にしたい事を把握し実施するようにしている。時間はその都度、入居者と話し合い決定している。基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは基本的に、本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定しにくい入居者には選択肢を提案するなど、本人の気持ちにそった支援を心掛けている。月に一度の訪問理美容サービスを利用したり、行きつけの理美容院がある方はそちらへ通う支援もしている。又、普段から使用している化粧品やシャンプー等の購入も支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養面を考慮し、旬の食材を多く採り入れ、入居者の好みや苦手な物を踏まえたメニューを工夫している。オヤツ作りや調理の下準備、食器洗い、食器拭き、お米研ぎ、テーブル拭き等入居者それぞれが出来る事を職員と一緒にやっている。	○ 入居者と一緒に献立を考えたり、調理をする機会を増やしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の体調に応じて、お酒や飲み物、オヤツ、たばこ等を楽しんでもらえるように支援している。晩酌する入居者と一緒に買い物に出掛け、好みのお酒を選んでもらっている。たばこについては、職員が預かり、吸いたい時に渡している。他の入居者に配慮し、喫煙場所には空気清浄機を設置している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の不安感や体調面を考慮しながら、一人ひとりに応じた、パット・リハパンの使用を支援している。失敗してしまった場合は本人が傷付かないように手早く、周囲に気づかれないう等の配慮をしながら対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯については、主に職員の都合で決めているが、入浴好きな方や、毎日膝までの足浴希望の方等、出来る限り一人ひとりの希望に沿うよう努めている。入浴を拒む入居者には、無理強いせず、言葉掛けや対応を工夫し、タイミングを見計らい、入浴して頂けるよう支援している。又、色々な入浴剤を使用し、リラックスした気分で入浴を楽しんで頂いている。	○	朝風呂や就寝前入浴等の希望があった場合は、出来る限り希望に沿えるよう、職員のシフト変更等柔軟に対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、離床に繋がるような働きかけをしている。体操、レクリエーション等に参加してもらい、生活リズムを重視した支援を心掛けている。寝つけない時は、ホットミルクやおやつを出しゆっくりお話を聞くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の個性を大切にし、趣味や得意な事(俳句・習字・裁縫・野菜作り等)を発揮出来るような支援をし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や力に応じて、手元に、5000円内のお小遣いを管理してもらっている。	○	お小遣いを管理していない入居者に対しても、力に応じて、買い物に行く時など、本人が支払えるよう工夫し、支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り、その日の入居者の希望に応じて、買い物、散歩、床屋等の外出支援をしている。	○	体制面で制限はあるが、一人ひとりに合わせた外出支援を今以上に行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホテルでの昼食、回転寿司、お花見、水族館、お寺参り、選挙の投票等の外出支援をしている。	○	入居者やご家族からもどんどん希望を出してもらえよう働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールにある電話を、希望する時に利用してもらっている。又、職員からの声掛け配慮もしている。手紙は入居者の希望により代筆したり、毎年賀状の作成を支援している。	○	電話の設置場所がホールにある為、会話が他入居者に聞こえないような場所に設置する事を検討していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人等の訪問は多くあり、お茶やお菓子をお出ししたり、一緒に食事をしてもらったりして、居室やホールで利用者どゆっくと過ごしてもらえるように配慮している。訪問時間などは特に定めていない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、徹底できている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけておらず、自由な暮らしが保たれている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。居室で過ごす入居者には、お話しをしいたりしている。夜間は数時間ごとに様子を確認するとともに、起きられた時にすぐ対応できるような場所におり、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	フロア内の注意の必要な物品については、入居者の手の届かない所に保管するようにしているが、全てを取り除くのではなく、入居者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。居室内においても同様である。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、職員全員が閲覧し情報共有している。それを基にミーティング等で話し合い、事故を未然に防ぐよう取り組んでいる。万が一事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について話し合われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは作成しているが、定期的な訓練は出来ていない。	○	職員全員が、緊急時に対応出来るように、定期的かつ継続的な実技を伴った研修をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、入居者と共に避難訓練は実施しているが、地域の人々の協力を得られた訓練は実施出来ていない。	○	地域の人々に、理解と協力を得られるような働きかけをしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度、統括ホーム長やケアマネージャー、管理者、などから説明し、ご家族と一緒に対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	心身状態の変化や異変に注意し、気付いた事は個別日報やフロアー日誌に記入したり、申し送りをして、情報の共有に努めている。状況に応じて病院と連携を図り対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターの指示に基づき、服薬支援をしている。処方内容はファイルし、確認できるようになっている。薬の処方や用量の変更、本人の状態変化が見られる時には、フロアー日誌に詳細を記入し、職員全員が把握できるようにしている。	○	自己管理している市販薬等の、服薬状況の把握について、検討を要する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ自然に排便を促すよう、乳製品、水分、食物繊維の摂取や運動を取り入れて対応している。入居者の状態に応じた下剤の調整を主治医と相談して支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力量に応じて、声掛けや見守りし、歯磨き、義歯の手入れの支援を行っている。入居者の生活習慣もあり、全員が毎食後口腔ケアはしていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日記録に残し、職員が情報を共有している。一人ひとりの状態に応じて摂取カロリーや栄養バランスに配慮した献立に努めている。	○	継続して、定期的にカロリー計算をして、摂取カロリーや栄養バランスの把握に努めたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは入居者、ご家族に同意を頂き、職員共に予防接種を受けている。ノロウイルス対策は取り決めをし、ハイター希釈液による消毒などを徹底し行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に一度、冷蔵庫内の清掃を行い、食材は日付を確認し管理している。台所、調理用具等は毎日消毒して衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、入居者手作りの作品や俳句等を飾り、暖かい雰囲気作りに努めている。立地条件の問題もあり、玄関外周りは殺風景である。	○	玄関外周りを工夫して、近隣の人が親しみやすい明るいイメージを作りあげたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内が明るく、家庭的な雰囲気になるように、季節に合った飾りつけや、季節の花を入居者と一緒に飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで新聞を読んだり、テレビを見たり思い思いに過ごしているが、共用スペースが狭い為、相性の悪い入居者同士の空間確保には特に配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者が家庭で使い慣れた家具や電気製品等を持ち込まれている。入居者が居心地よく過ごせる空間になるよう、本人・ご家族と相談しながら支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除、シーツ交換時には、窓を開け換気を行っている。冷暖房の調節は利用者を確認を取りながら支援している。冬場は乾燥するので、加湿器や加湿タオルを設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態にあわせて、居住空間が適しているかをその都度見直している。入居者・ご家族と相談しながら、居室内に手摺りや、ベットに移動用バーを設置したりし、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示の設置や、入浴時には、「ゆ」の暖簾を下げ分かり易いように工夫している。各居室入口には、入居者手作りの表札を飾っている。又、さりげない声掛けにより、自分で判断して動けるような対応に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りはスペースがなく、環境が良いとは言えないが、物干し周辺に、花や野菜を植えて入居者に成長を楽しんでもらえるよう工夫している。	○	物干し周辺の足場を整備して、多くの入居者が花や野菜の栽培に参加出来るようにしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族、知人の訪問が多い。職員は笑顔で迎え、来訪しやすい雰囲気作りに努めている。
お茶やおやつを用意したり、入居者と一緒に食事をしてもらったり、ゆっくり入居者と過ごせるよう配慮している。
季節の行事毎に、手作りの赤飯やおはぎを差し入れして下さる来訪者もいる。